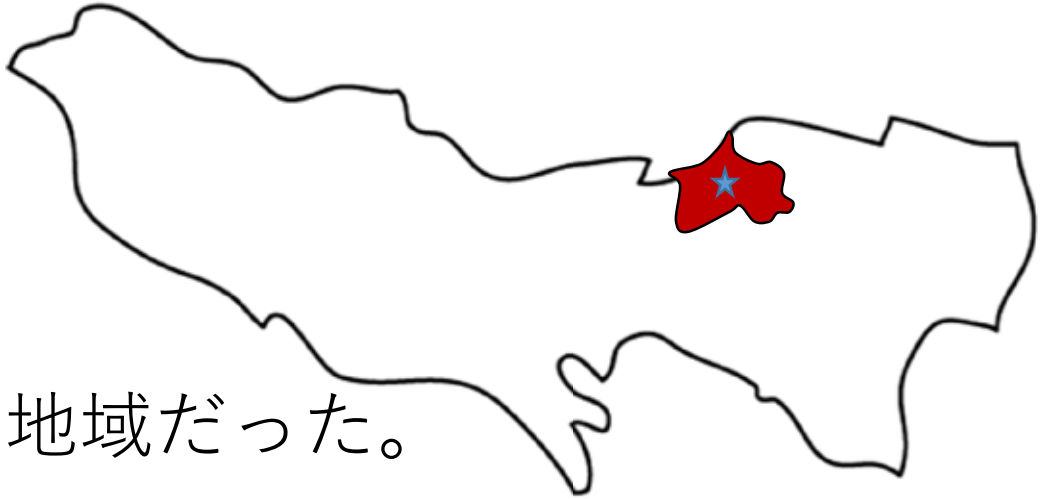
練馬区指定文化財

旧内田家住宅

16N1107　成澤拓人
16N1073　杉本圭輝
16N1078　関口剛
16N1139　村中龍一

東京都練馬区中村橋



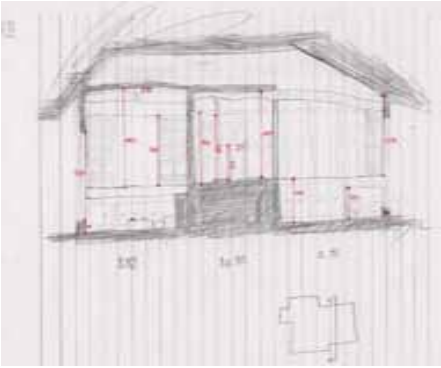
明治、昭和期は茅葺の屋根が点在する農村地域だった。
現在は住宅の密集する地域となっている。

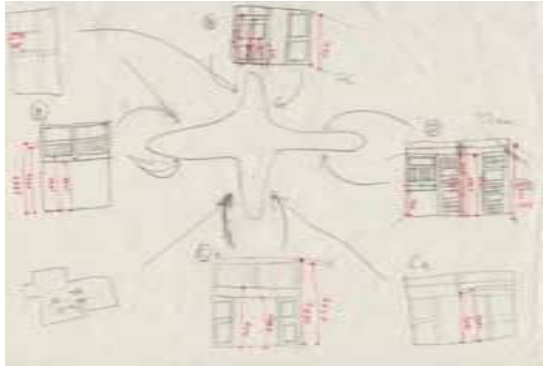
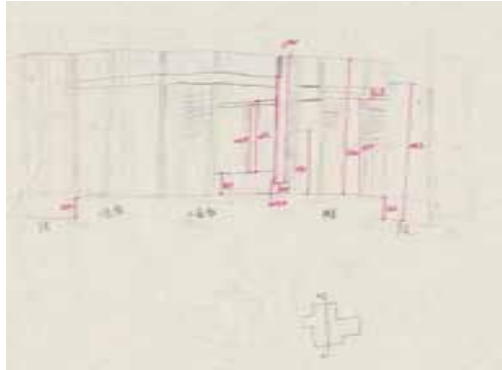
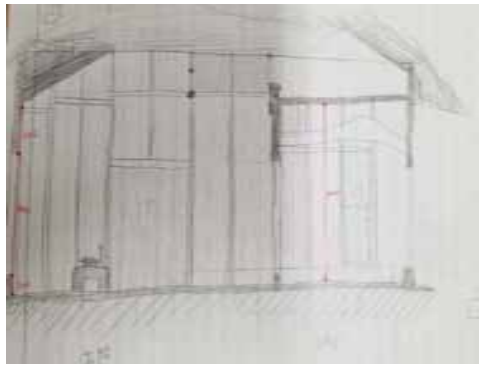
建築当初(明治20年代初め)は中村にあったが、文化財保護のために石神井公園の敷地内に移築。
昭和戦前の間取りを復元させた。

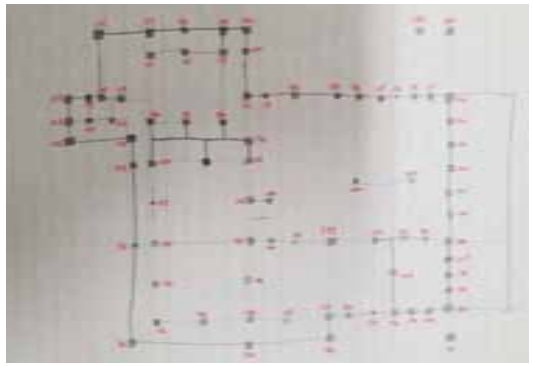
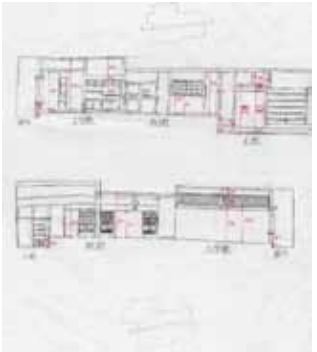
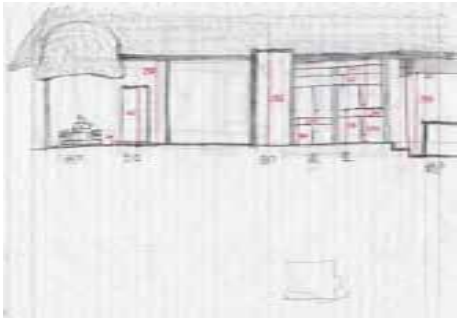
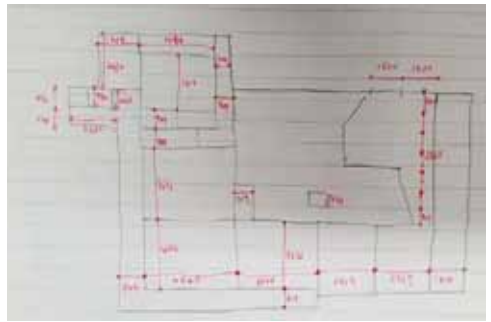
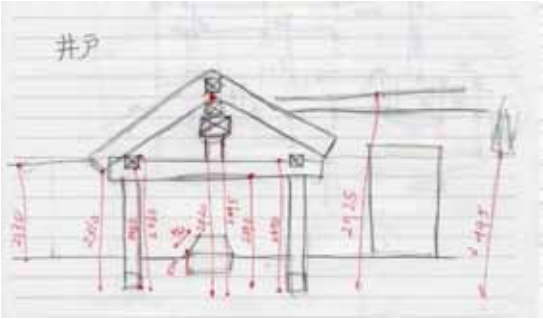
直線材の梁より自然の曲がった丸太一本の梁の方が地震力などの水平力に抵抗できる。

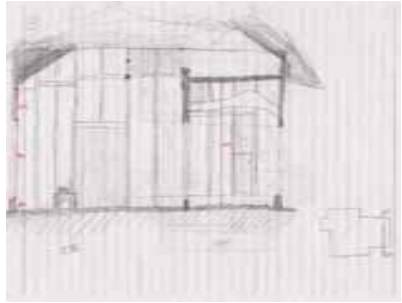
家の様々なところに丸太をそのまま使用している梁があり、豪農であったことがうかがえる。

野帳

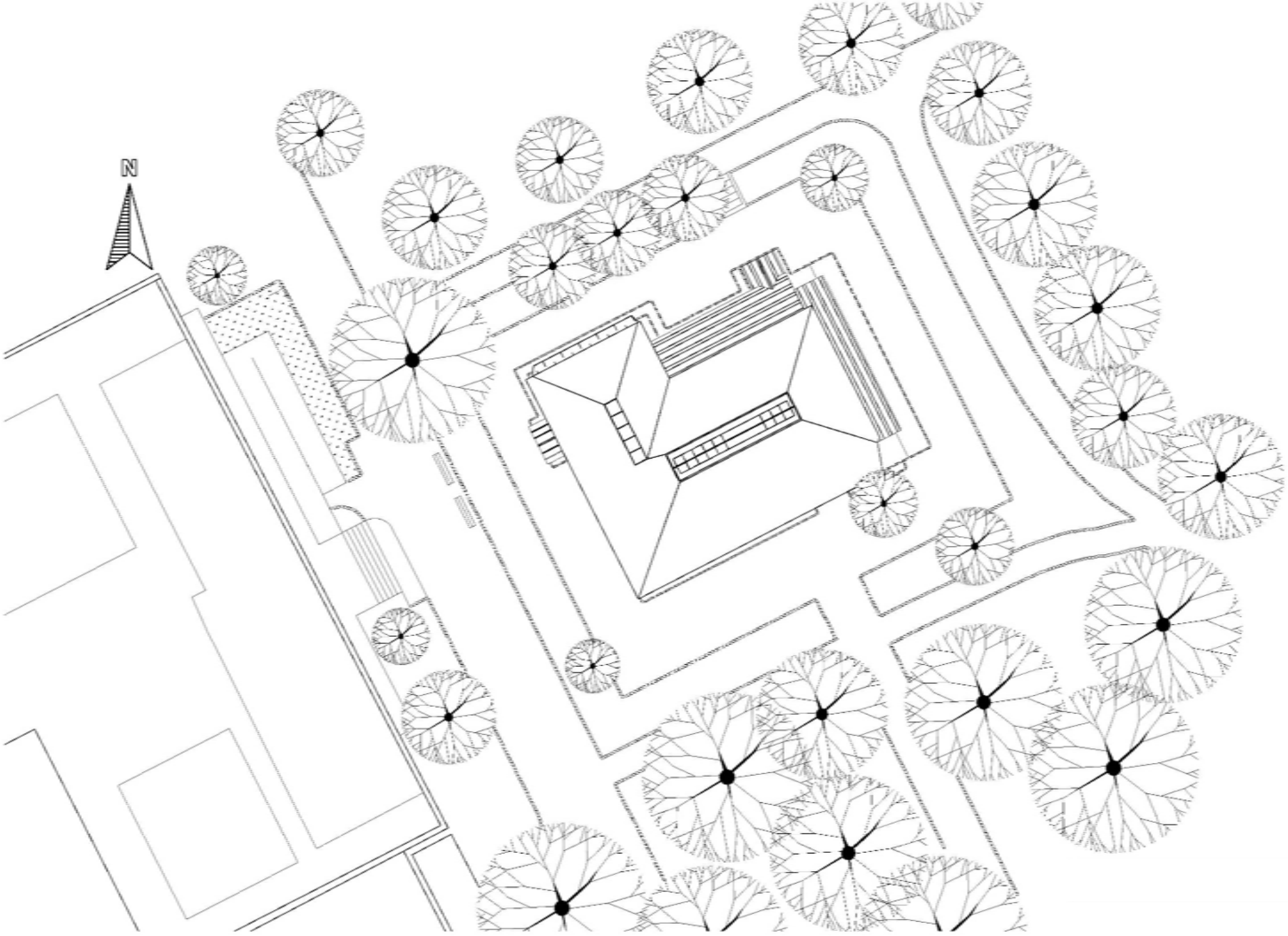


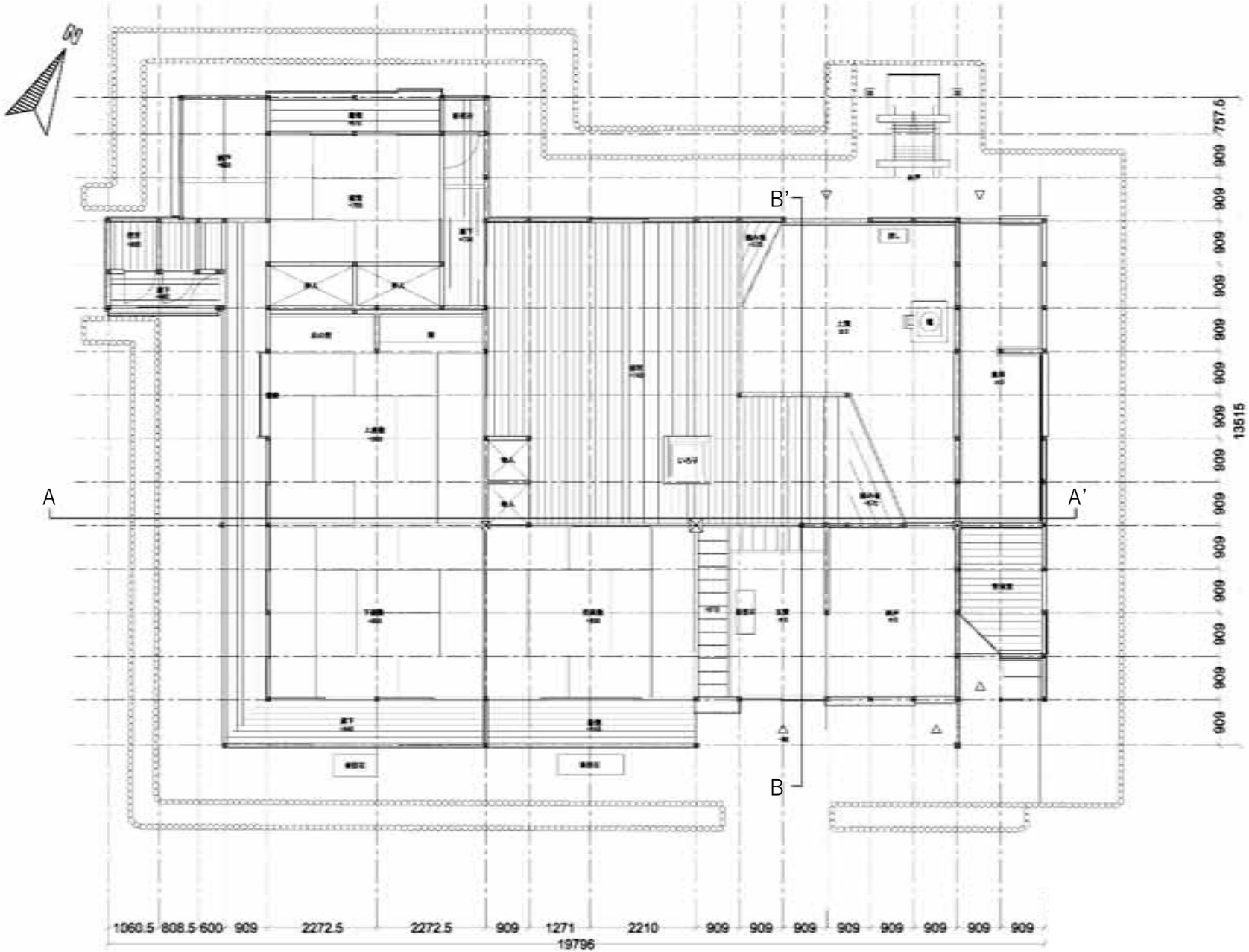








配置図



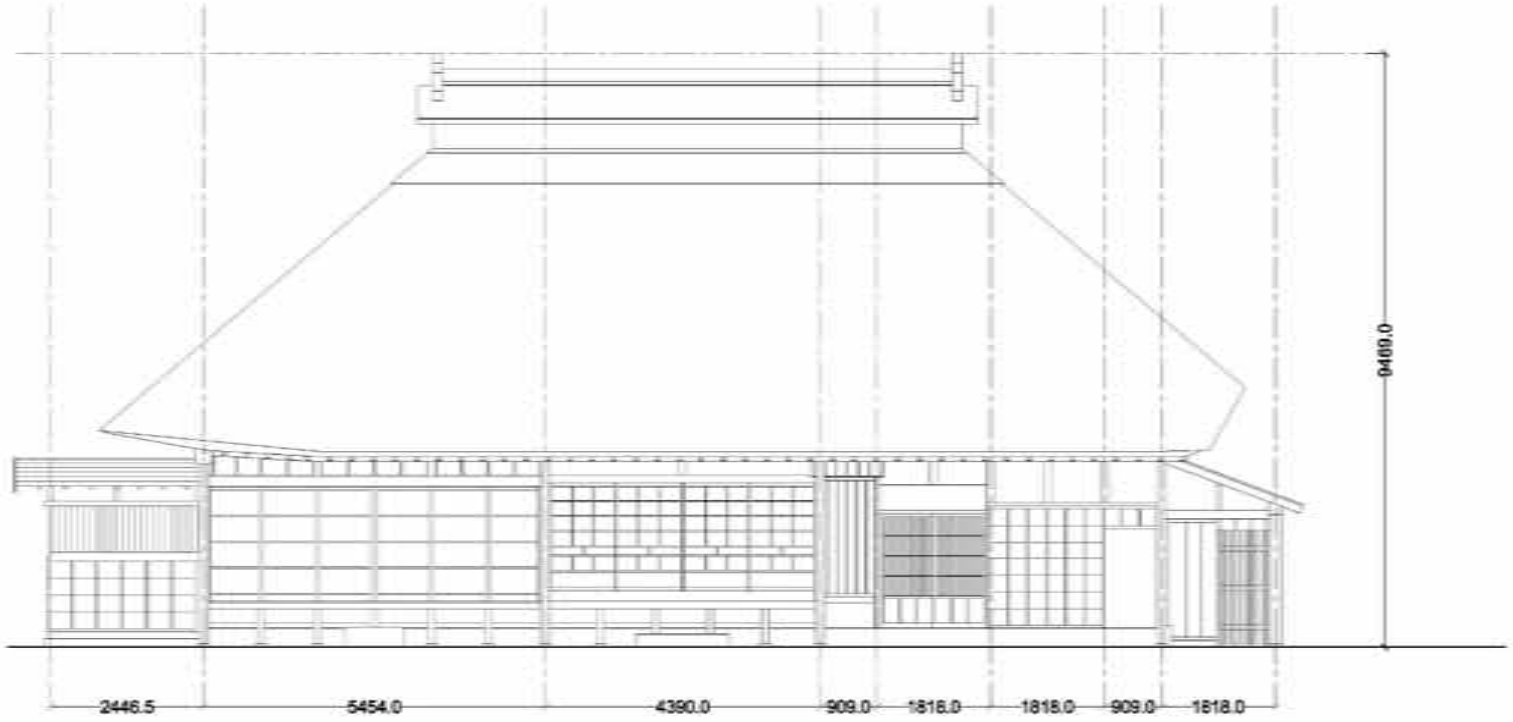
平面図


A
A'
B'
B
1060.5
808.5
600
909
2272.5
2272.5
909
1271
2210
909
909
909
909
909
909
909
909
19796
757.5
909
909
909
909
909
909
909
909
909
909
909
909
13515

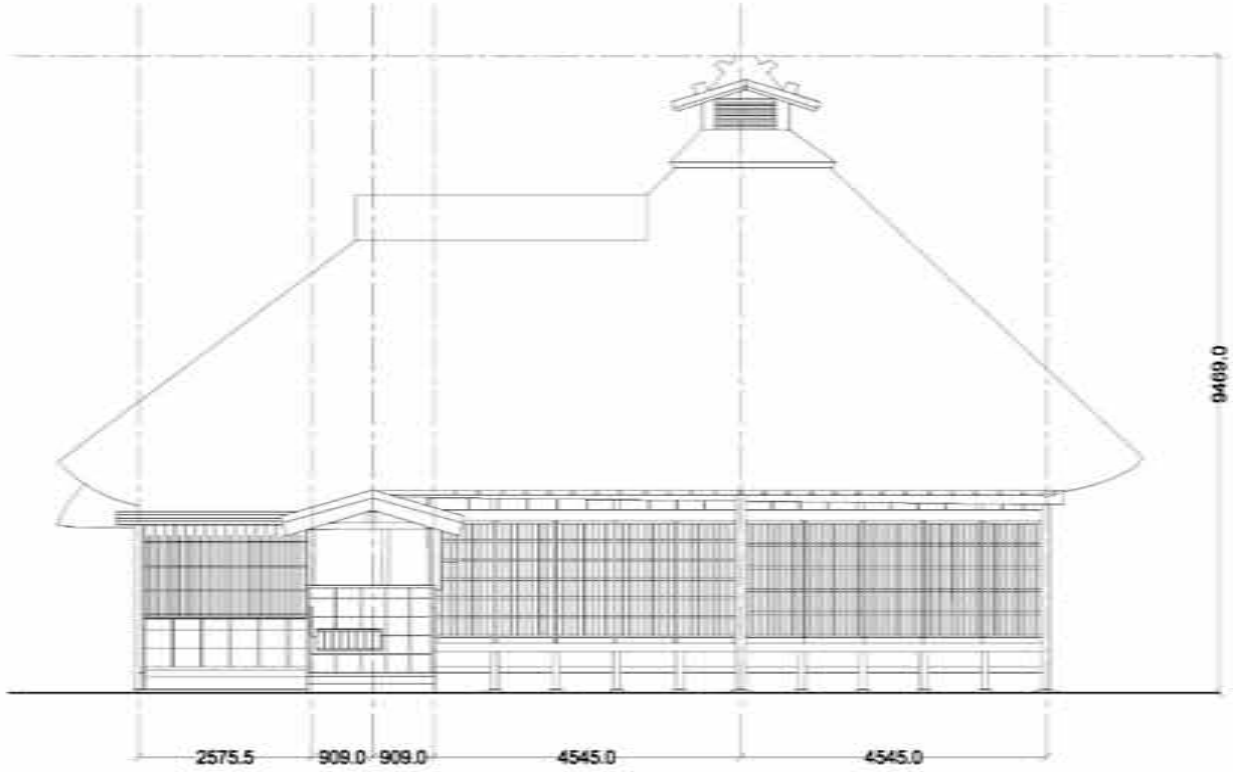
柱図

1060.5 608.5 600 909 2272.5 2272.5 909 1271 2210 909 909 909 909 909 909 909 909
19796
757.5 909 909 909 909 909 909 909 909 909 909 909 909 909 909
13515
色 寸法
100
105
115
130
180
295

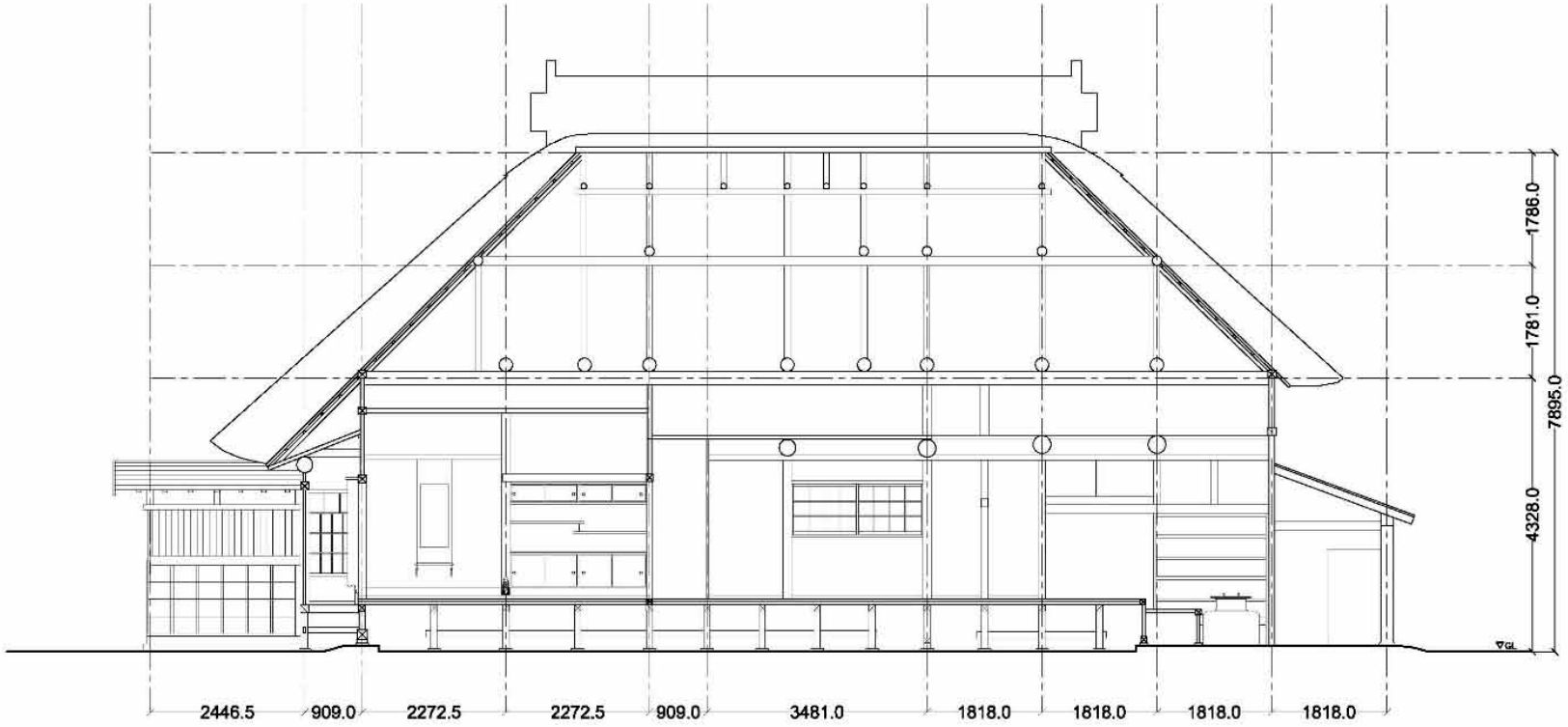
南立面図



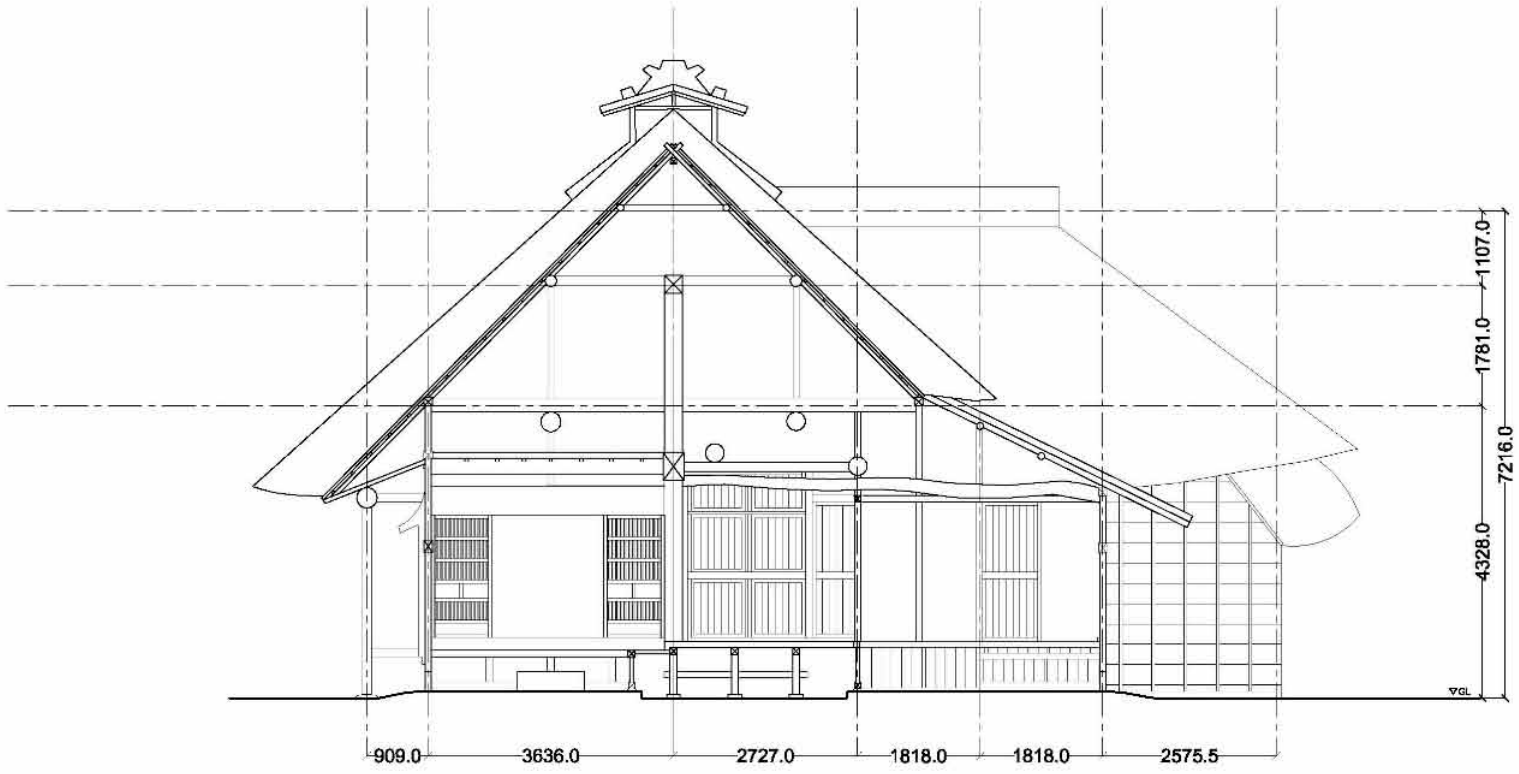
西立面図



AA’断面図


1786.0
1781.0
7895.0
4328.0
2446.5
909.0
2272.5
2272.5
909.0
3481.0
1818.0
1818.0
1818.0
1818.0

BB’断面図


1107.0
1781.0
7216.0
4328.0
▽GL
909.0
3636.0
2727.0
1818.0
1818.0
2575.5

パンフレット

かつての練馬区域は、茅葺き屋根の農家が点在する、江戸、東京の近郊農村でした。

旧内田家住宅は、明治20年代初めに練馬区中村に建てられた民家です。部材の一部には、江戸時代の古材も使われています。

平成19（2007）年に建物をいったん部材ごとに解体し、必要な調査を行った後、練馬区立石神井公園ふるさと文化館の屋外展示施設として、平成22（2010）年に区立池淵史跡公園へ移築復元しました。

建築年代　明治20年代初め　　**構造形式**　茅葺き寄棟造り（平入り）
間取り　整形四間取りの主休部とその北西に張り出す角屋からなる
桁行　15.3メートル　**梁間**　10.9メートル（管理室等をのぞく）
角屋部　桁行　4.4メートル　梁間　6.4メートル

木組み

移築の様子

茅葺き作業

明治から昭和、平成にかけての生活空間の変化

時代や生活の変化に応じて間取りを変えたり改築しながら、約120年の間、伝えられてきました。昭和戦前期の姿に復元を行いました。

繊細なつくりの座敷と、梁組みが見える土間・板間が対比的で魅力ある空間となっています。

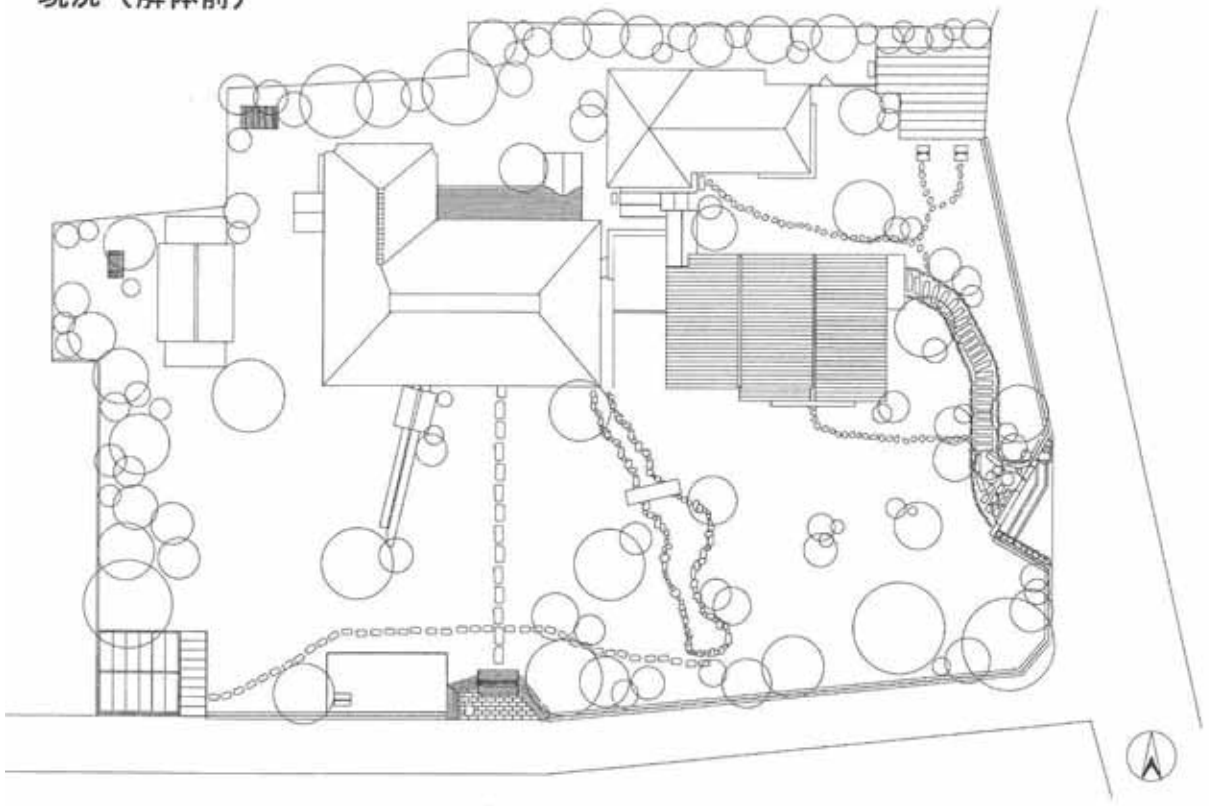
創建時（明治20年代）

昭和戦前期

解体時（平成19年）

参考図面：移築前の配置図・平面図

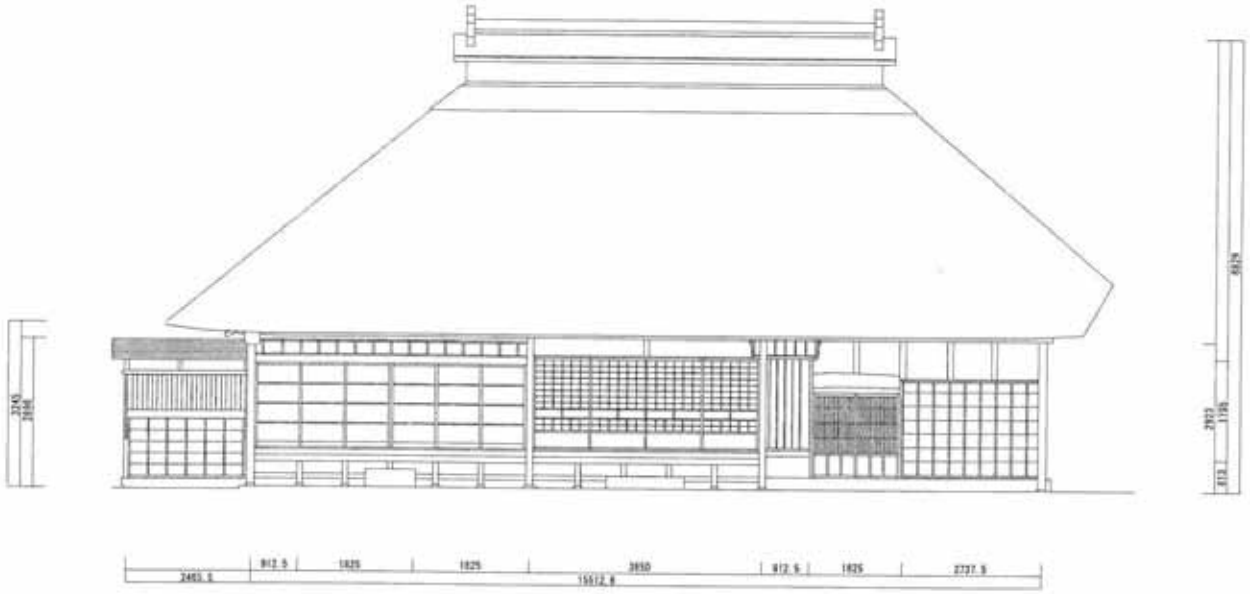
現況（解体前）



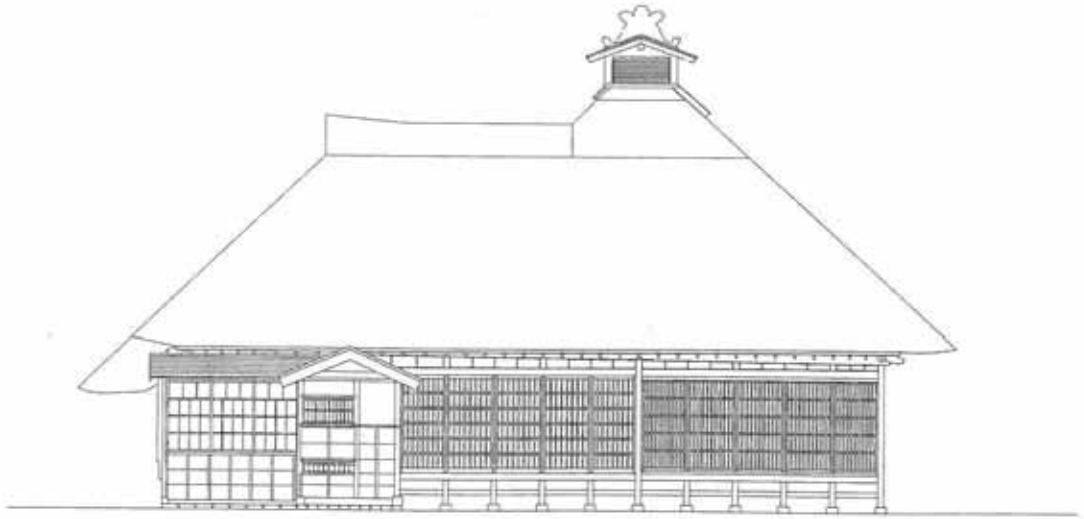
現況配置図

現況平面図

参考図面：移築前の
の立面図



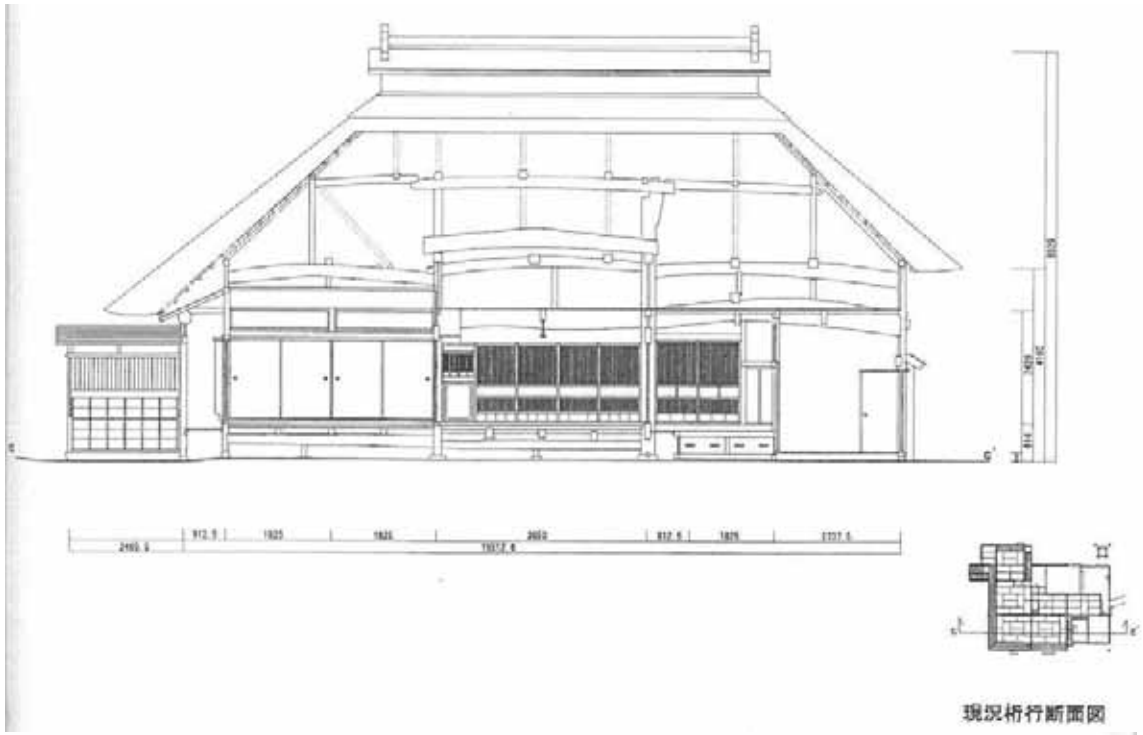
現況南立面図

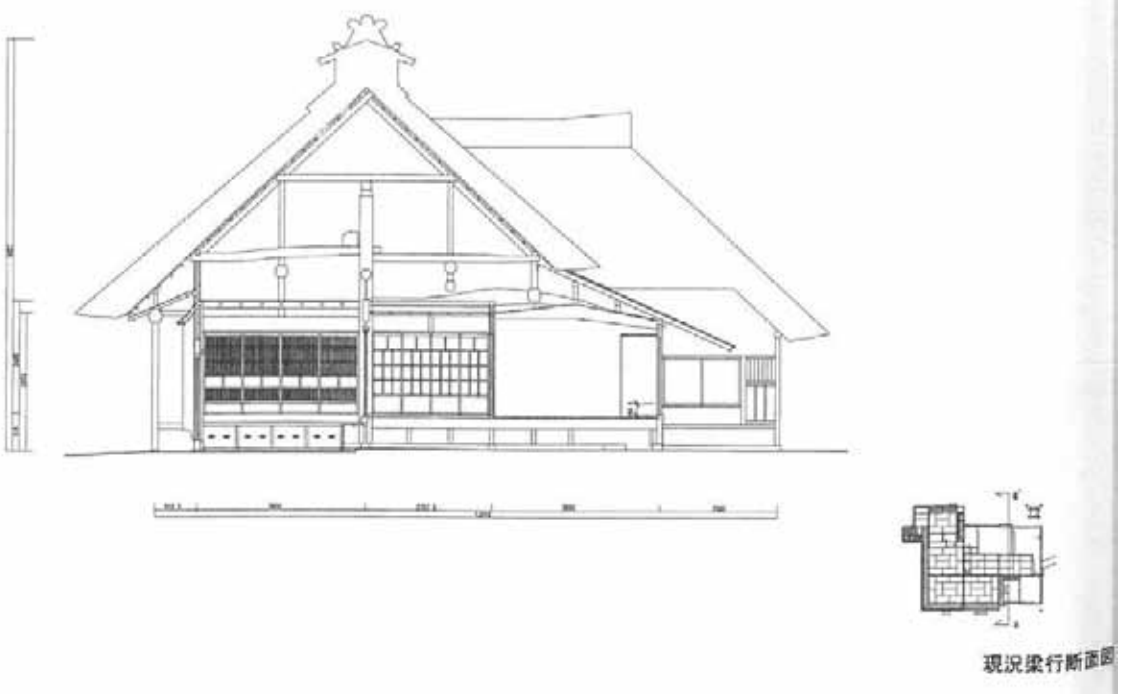


現況西立面図

現況東立面図

参考図面：移築前の断面図



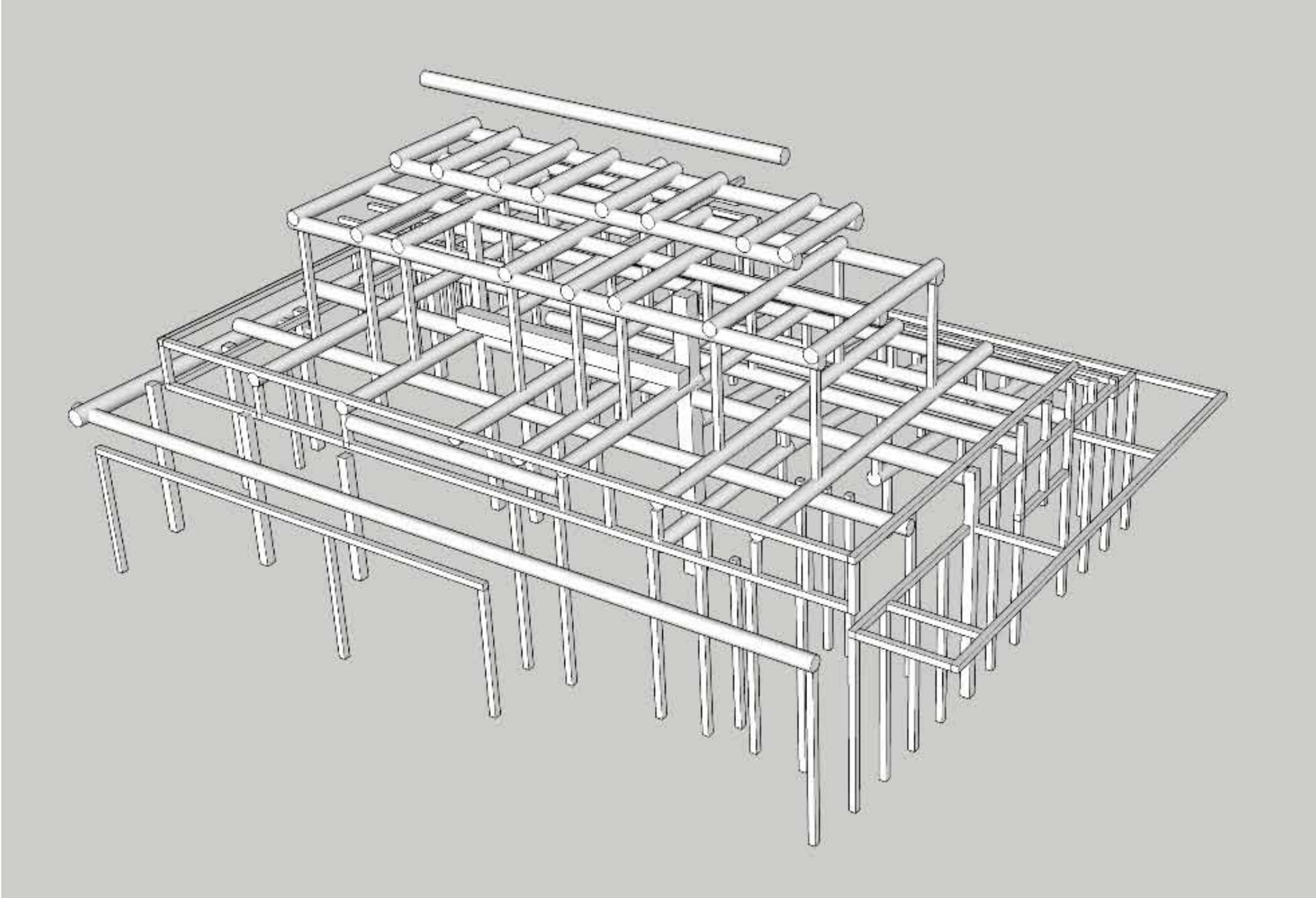


床の間

逆柱

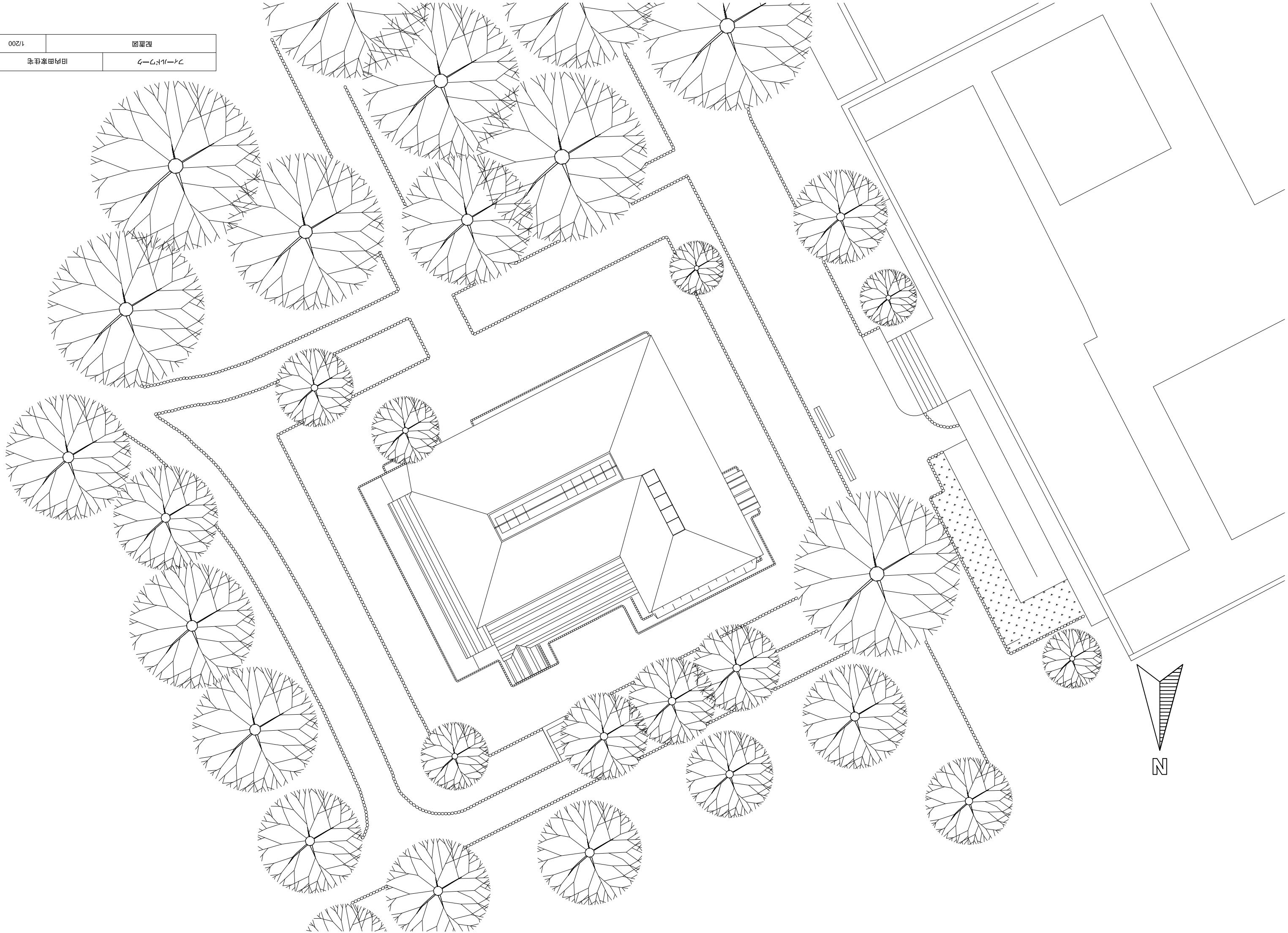
たけのこ杢

小屋組み

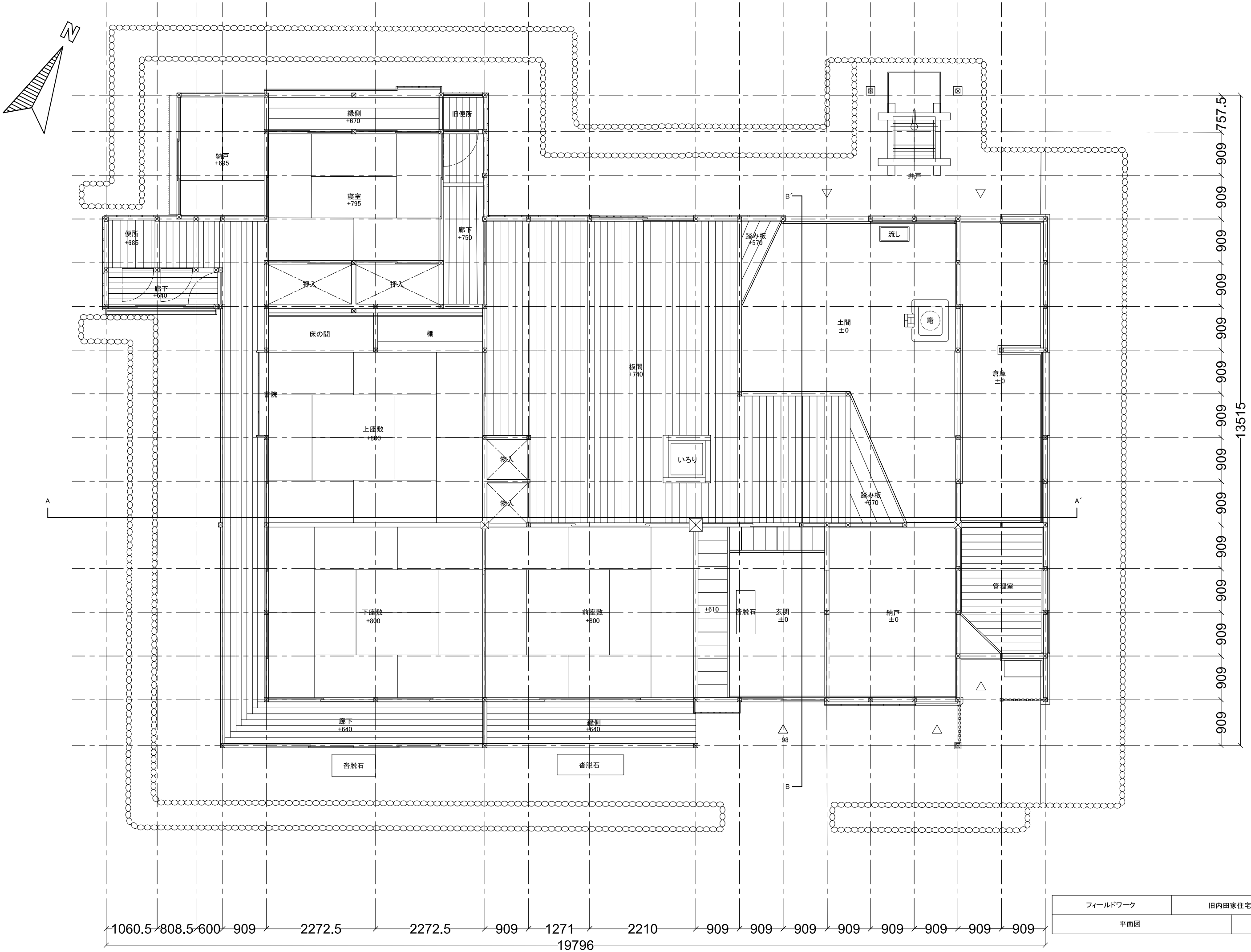


床下

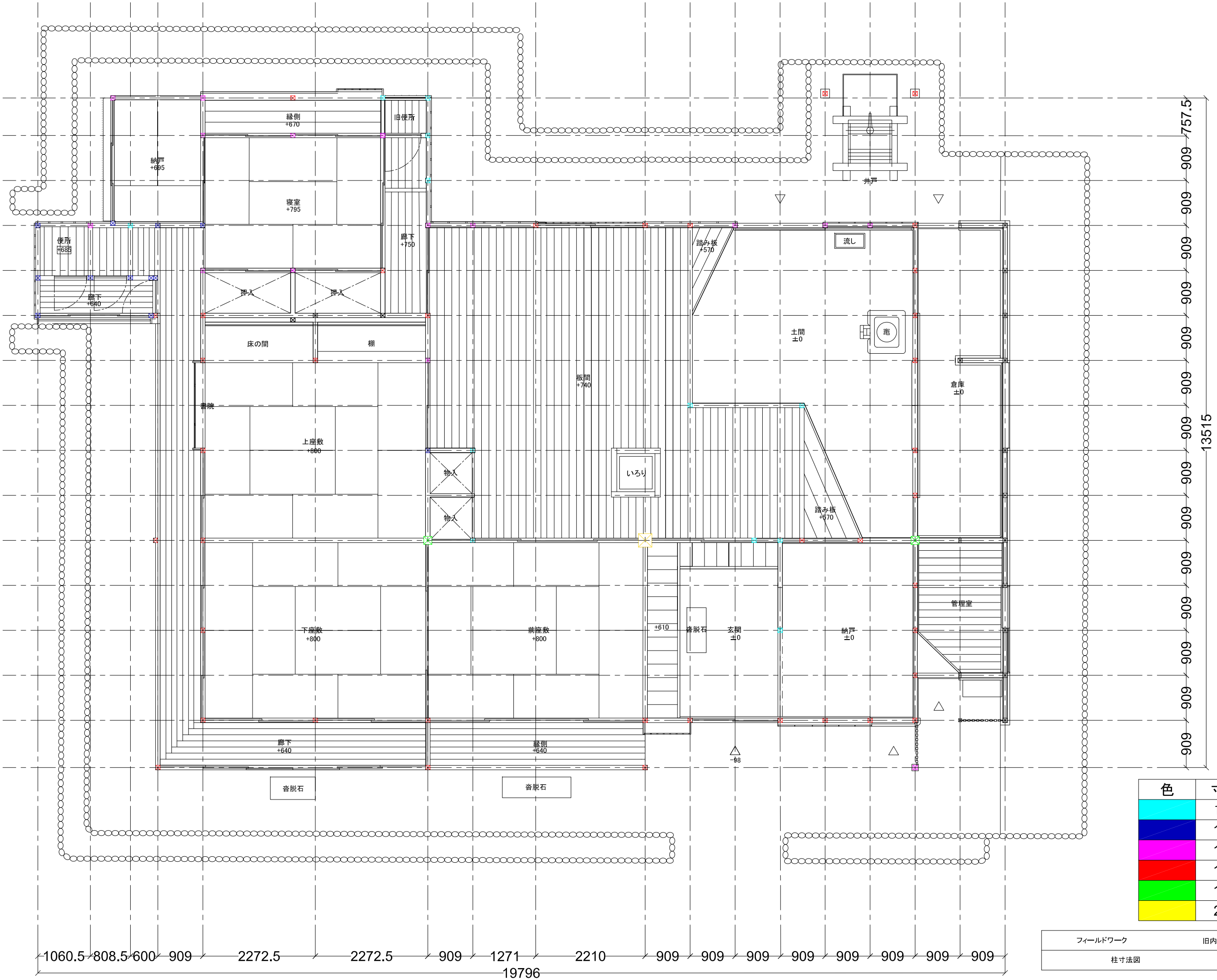
模型



フィールドワーク	旧内田家住宅
配置図	1/200

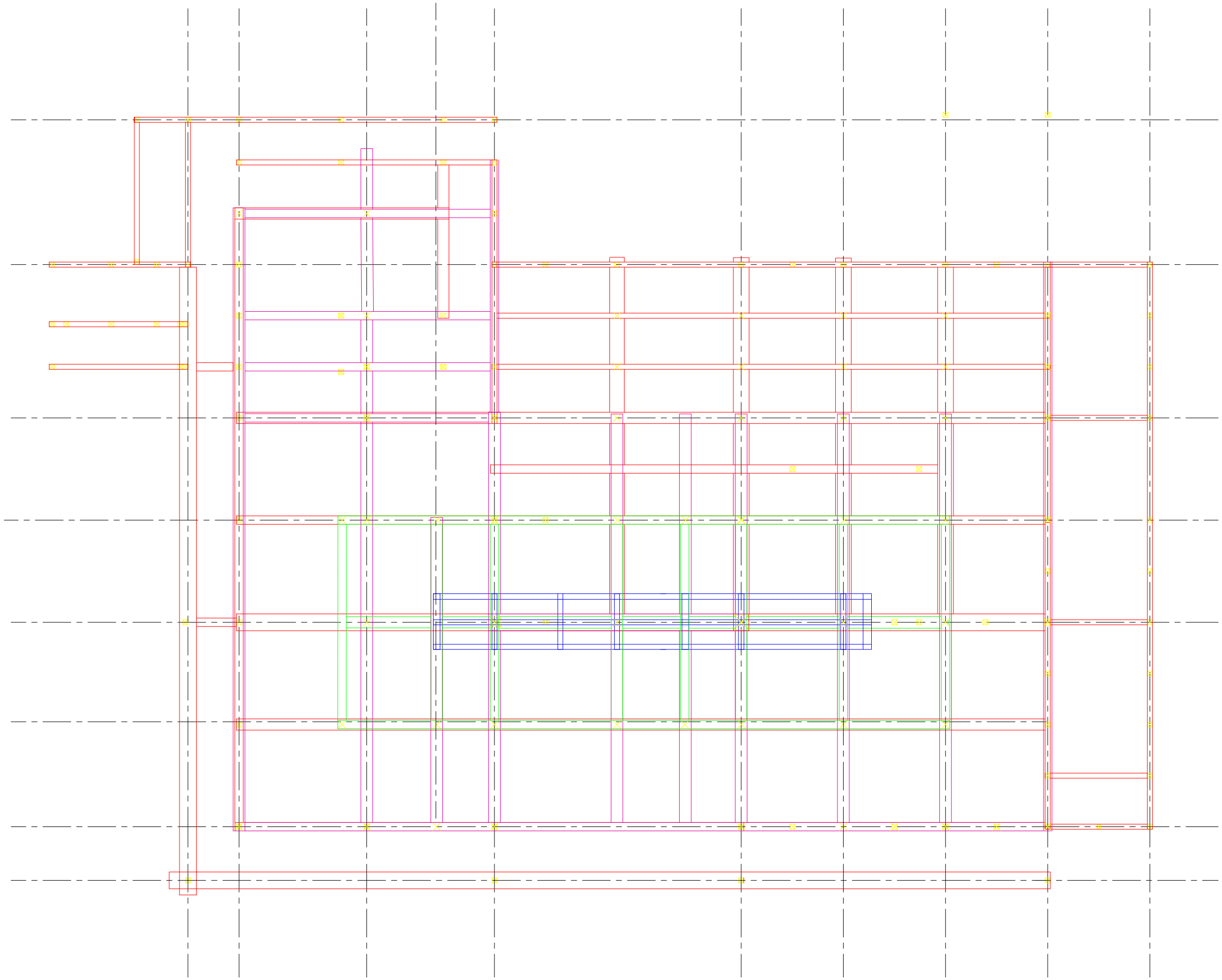


フィールドワーク	旧内田家住宅
平面図	1/70



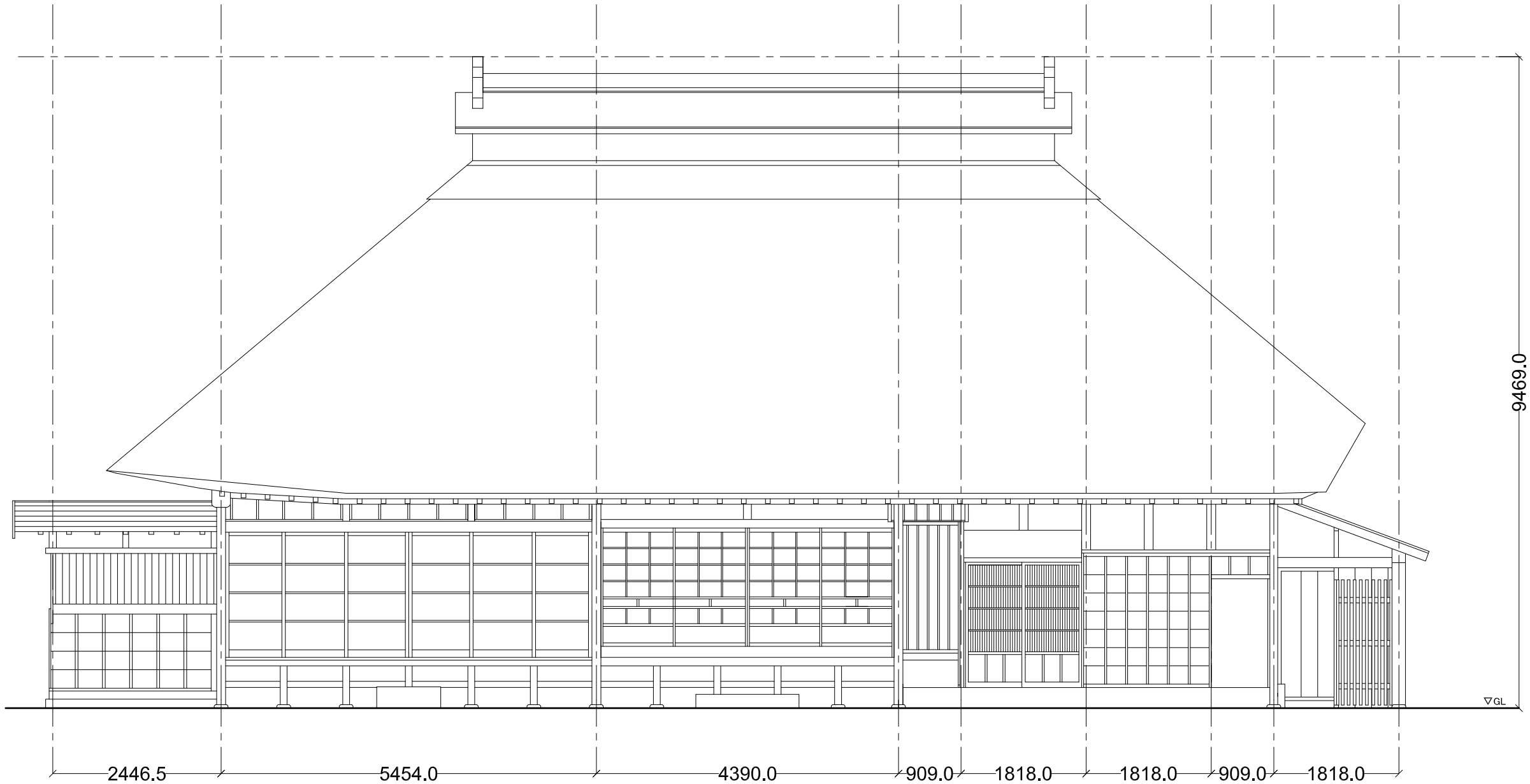
色	寸法
	100
	105
	115
	130
	180
	295

フィールドワーク	旧内田家住宅
柱寸法図	1/70

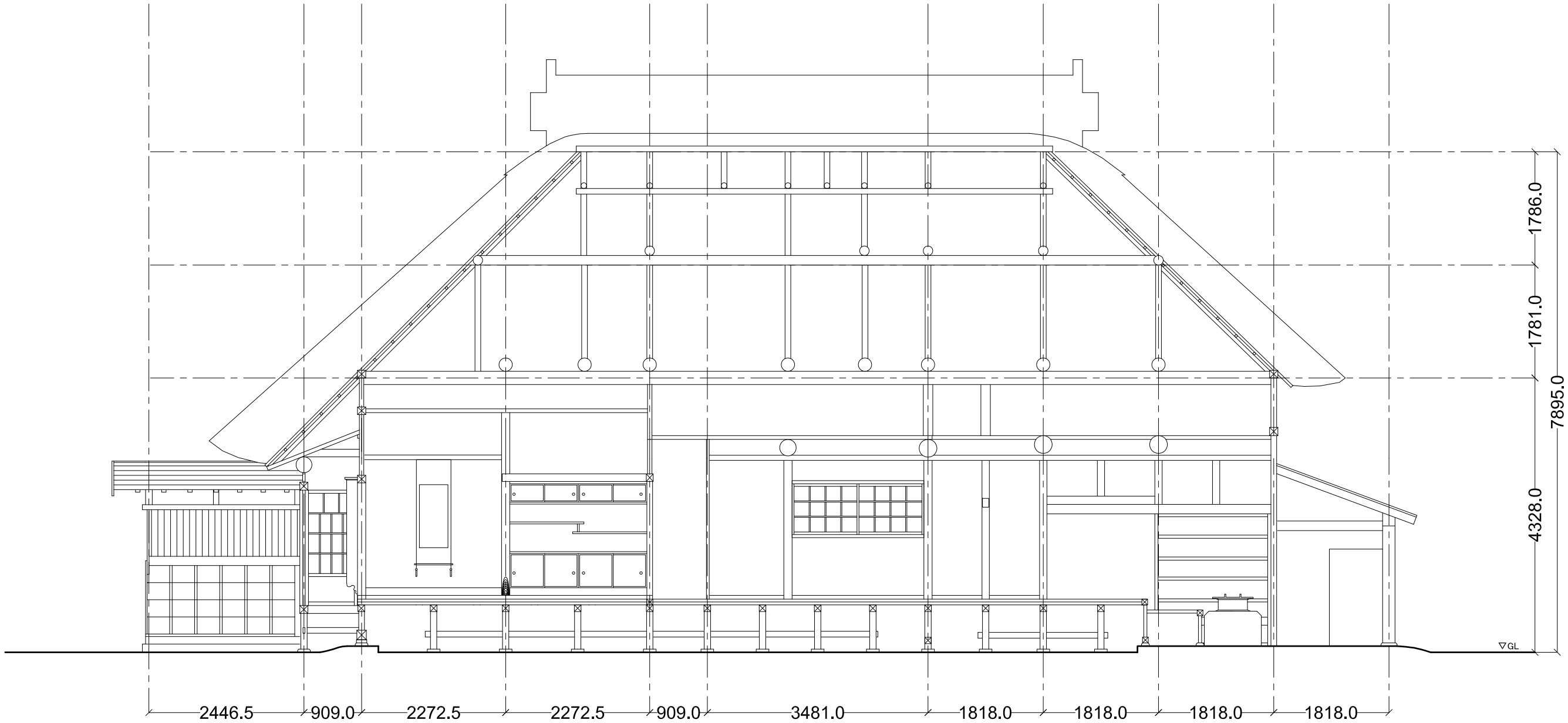


色	梁高さ
	梁Lv1
	梁Lv2
	梁Lv3
	梁Lv4
	束

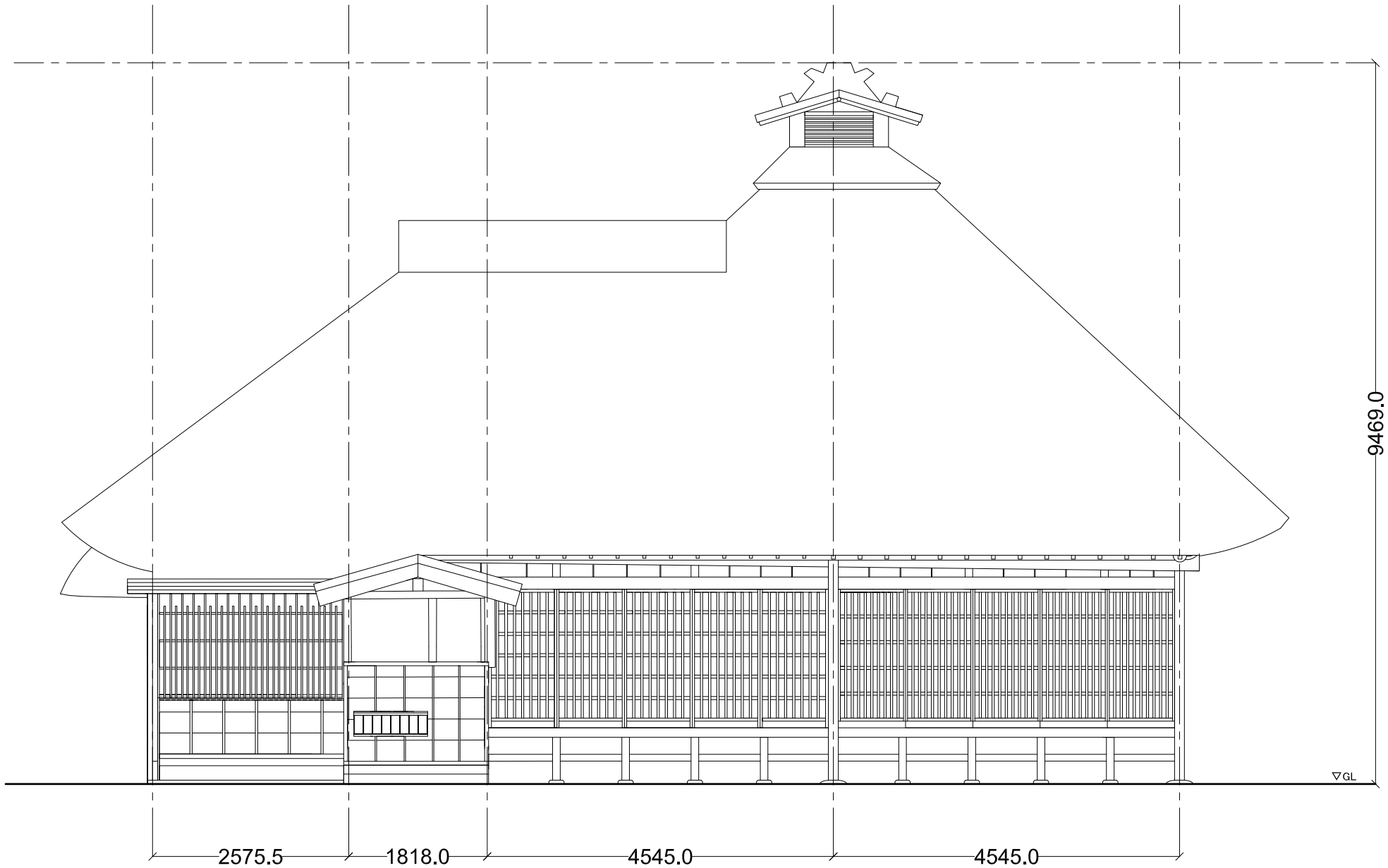
フィールドワーク	旧内田家住宅
小屋伏図	1/70



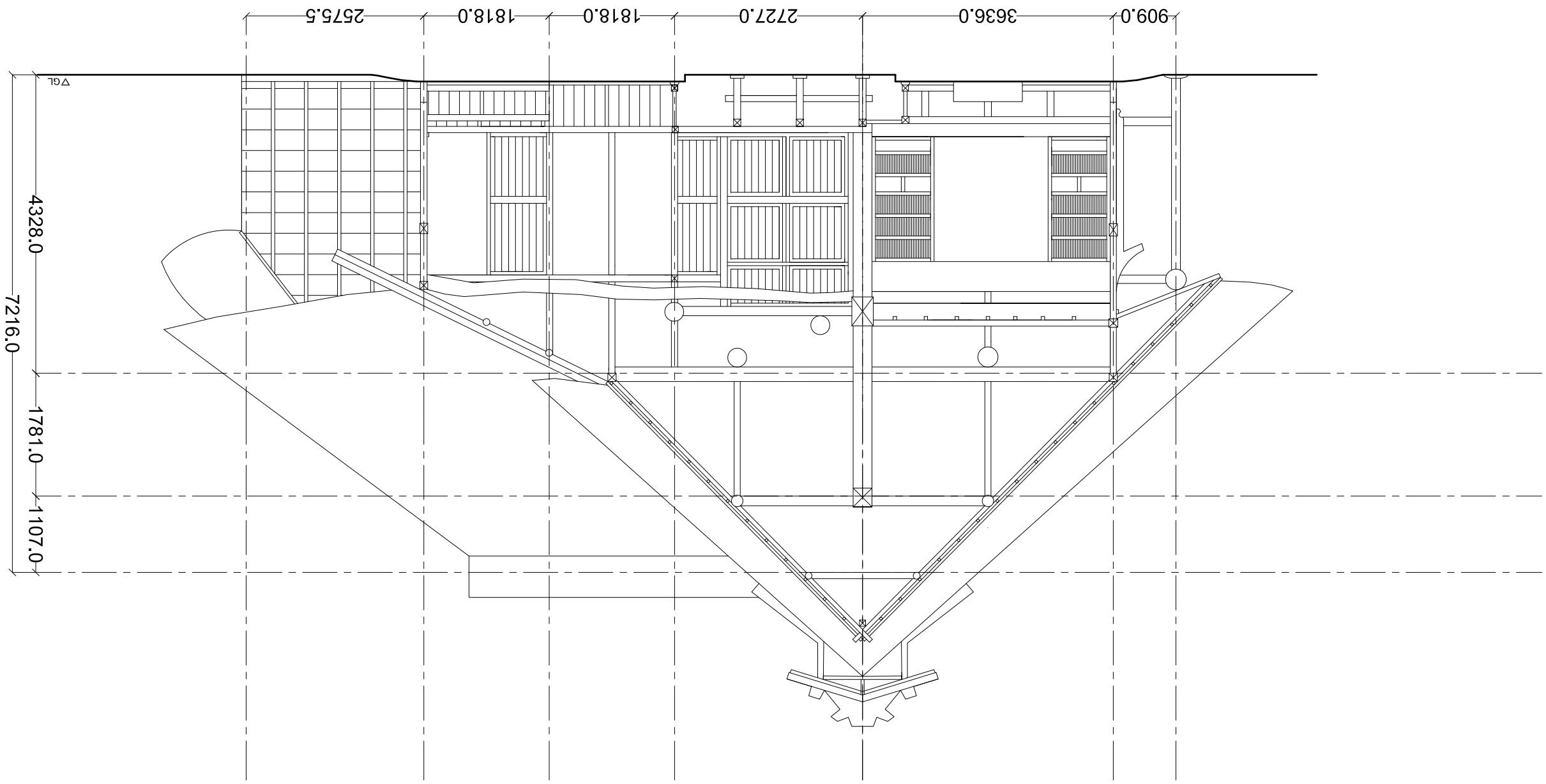
フィールドワーク	旧内田家住宅
南立面図	1/70



フィールドワーク	旧内田家住宅
AA´南断面図	1/70



フィールドワーク	旧内田家住宅
西立面図	1/70



旧内田家住宅	
BB´東断面図	1/70